



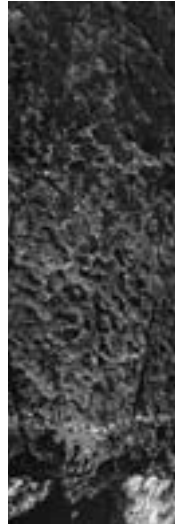
第26回写真の町東川賞決定!



新人作家賞 オサム・ジェームス・中川 なかがわ = 米国ブルーミングトン市在住

1962年、米国ニューヨーク市生まれ。15歳まで東京で育つ。米国ヒューストン大学芸術学部にて修士号を取得。米国インディアナ大学芸術学部准教授、写真学科長。ニューヨーク・グッゲンハイム財団からフェローシップを受け、沖縄で写真制作を行っています。

沖縄の集団自決の背景もある断崖での体験をもとにした「バンタ」シリーズ (2005-2008年) は、複数の写真をデジタル合成によってつなぎ合わせ、めまいがするようなパースペクティブと奇妙なリアリティーを持った作品。その後「ガマ」シリーズ (2008-) を発表。



From the Banta (崖) series #001, 2008



From the Banta (崖) series #007, 2008



From the Banta (崖) series #017, 2008



特別作家賞 / 萩原義弘 はぎわらよしひろ = 東京都内在住

1961 (昭和36) 年、群馬県高崎市生まれ。1985 (同60) 年、日本大学芸術学部写真学科卒業。2001 (平成13) 年、さがみはら写真新人賞受賞。2007 (同19) 年、毎日新聞社出版写真部を経てフリー。

1982 (昭和57) 年、前年に起きた夕張新炭鉱突出ガス事故の影響が残る夕張を訪れて以来、東京と夕張を往復しながら夕張撮影を継続。仕事の傍ら、当時続々と閉山されつつあった夕張や全国の炭鉱や鉱山の記録撮影を続ける。人の生活の気配を感じられるような作品を「6×6」フォーマットで制作。

2004 (同16) 年、写真集『巨幹残栄・忘れられた日本の廃鉱』(窓社)。2008 (同20) 年、写真集『SNOWY』(冬青社)。

2009 (同21) 年、目黒区美術館 (東京) の「文化」資源としての炭鉱」展で、1983 (昭和58) 年に撮影した写真と同じ場所を2008 (平成20) 年に再度撮影した「夕張定点観測」の写真を初めて発表。



手稲鉱山 札幌市 2000年



夕張定点観測 1983年
ズリ捨て線トンネルから社光地区を見る



夕張定点観測 2008年



飛弾野数右衛門賞 / 小島一郎 こじまいちろう = 青森県出身 (1924 (昭和13) 年 - 1964 (同39) 年)

1924 (昭和13) 年、青森市生まれ。1958 (同33) 年、初の個展「津軽」(東京・小西六ギャラリー) を開催。上京してフリーカメラマン。「下北の荒海」で『カメラ芸術』誌新人賞受賞。

1963 (同38) 年、「津軽 一詩・文・写真集」(新潮社刊、文・石坂洋次郎、詩・高木恭造) 出版後、年末から翌年にかけての北海道での冬季撮影旅行中に体調を崩し、翌年39歳の若さで死去。

1980年代半ばから再評価の波が高まり、2004 (平成16) 年に初の本格的写真集『hysteric Eleven 小島一郎』(ヒステリックグラマー) が出版され、2008 (同20) 年、故郷の青森県立美術館で大回顧展「小島一郎—北を撮る」が開かれました。



《疾走》下北地方 1961年頃



五所川原市十三 1957年



つがる市(稲垣付近) 1960年

<受賞者敬称略>